

ドイツ連邦食料・農業省 最新農林漁業情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft

NO 17

2018・11・3

1 連邦農業大臣クレックナー：ドイツで有機産物への需要はより強く拡大
ー我々は潜在するこの可能性を汲み尽くすー (2018・10・26)

連邦大臣はマインツにおいて、有機農業に関する連邦農業省の国内将来戦略の継続を公表した。2017年にドイツにおいて有機食品が、初めて100億ユーロ（約1兆3000億円）以上の売り上げに達した。ドイツは、EUにおいて遙かに群を抜いた有機産物に関する主要な需要者である。そして世界規模でもアメリカに次いで第2位の位置にある。

連邦農業大臣クレックナー：“我々は毎日スーパーマーケットで有機産物を、見ることができる。有機分野は成長している。有機はとっくに隙間産物ではない。そのため、私は既に消費者グループに理解を求めている。有機産物を評価し、そして慣行栽培で生産された食料をも購入することを。私は多くの人々の頭に埋め込まれている、これまでの概念を互いに解決したい。我々は消費者に有機産物の購入を、規則で命ずることはできない。しかし、私にとって重要なことは、消費者が購入を決定する上での基礎となる情報に出会い、そして自らの中で考えを確立するように、そして明らかに理解することができるよう、支援すべきことである。”

喜ばしいこと、持続的に生産される食料に対する需要が、継続的に増加していることである。だがしかし、ドイツにおける有機農業の割合が、これに遅れないよう進行していない。私は望んでいる。つまり、我々は可能性をより強く利用し、その栽培方法を転換したい農業者への助けになるようにしたい！

代替可能な農業についての研究、デジタル化の適用、適切なアドバイス並びに教育といったこの分野への支援が、私にとって重要な関心事である。”

連邦食料・農業省は、2017年に「有機農業の将来戦略」でもって、ドイツにおける有機栽培がさらに前進するための路線を定めた。

土壌と水のような我々の資源は、節約すべきということが、連邦政府と私の省に関して空虚な決まり文句でない。それは有機農業の将来戦略でもって、私の省が路線を定めたところである。それでもって、有機規則で管理する農地面積の割合を増加させる。EU 有機規則が既に適応している後で、私はさらに研究分野により多く投資したい。「ロードマップ研究」をより早く仕上げるために。その上、我々は慣行栽培から有機栽培への転換を奨励し、職業上の教育において有機栽培を定着させ、そして地域的な有機価値生産チェーンを強化する。

同時に我々は、家庭内一外の食事提供でも有機割合を増加させることを、成し遂げたい”と、クレックナーは、マインツにおける対話集会で述べた。2018年度連邦財政において、連邦プログラム有機農業（BöLN）に関する財源は、2000万ユーロ（約26億円）から3000万ユーロ（39億円）と、毎年明らかに増額している。有機栽培で活用される奨励は、研究についても農業財政の他のタイトルでもみられる。農業社会給付金または見本市のタイトルでも。

連邦農業省大臣クレックナー：“連邦政府は連立政権協約において、有機管理する農地の割合を2030年までに、20%に増加させることを目標にしている。

そのため、私はザールラント州、バイエルン州、ハンブルグ、ニーダーザクセン州のような州について、そして今ラインラントプファルツ州でも明確に目標を文書化し、連邦政府の関心事を支援していることを歓迎したい。”

2020年以降の共通農業政策の視点でもって大臣は説明した：“我々は将来においても、この分野で立ち止まることはしない。というのは、私はEU-同盟の共通農業政策において、有機栽培に尽力するからである。第1の柱でもって収入面を支援し、そして生物多様性と気象資源保護強化のために、目的に適った意欲的な貢献を果たしている。

第2の柱の財源もまた、現在の提案によって最低30%を気象保護、生物多様性の保護、そして持続的な農村発展のために最低30%が支出される。ヨーロッパレベルで、連邦レベルで、州レベルでと全てのレベルで、2020年までの我々の目標20%を達成するためには、最終的に共同のみで可能となる”と、クレックナー連邦農業大臣が締めくくった。

2 イツ連邦農業省大臣：古い問題のために新たな解決を

—我々はチャンスを活用すべき— (2018・10・23)

連邦農業大臣クレックナーは、明日のデジタルテクノロジー革新の日に際して、情報を提供した。連邦農業省の革新奨励でもって、研究—発展プロジェクトが奨励されている。このプロジェクトは、ボンにある連邦農業・食糧局（BLE）の革新の日の領域において、今日と明日に提案される。これについてクレックナー大臣が述べた：革新の日は、明日からテクノロジーの分野において、わくわくさせる展望をもたらす。背中に超小型チップを背負った蜜蜂は、その結果でもって自らの健康状態を監視することができる。またはクッキーの中の油脂を減らすための方法もまた、我々の将来課題である。

私が奨励したいこのようなことが、革新である。なぜならば、古い問題は新しい解決を必要としている。目隠ししているかわりに、考えるべきである。我々はまだより多くの創造の余地を、活かさねばならない。チャンスを活用し、そして万一のリスクに適切に対応することが重要である。当事者以外の人のために、多分一度はアカデミック—抽象的な問題に耳を傾ける。しかし、正確な肥料のやり方または、首輪での家畜福祉のデジタルでの監視は、食料の品質または収穫量への具体的な影響をもたらす。私の省は賢い頭脳と創造力、革新力を奨励している。

というのは、ただ農業、食料、環境そして社会のための研究の大きなチャンスを活用できる。我々の共通の目的は、新しいことに思い切って取り組み、そして勇気をもって新しいことを考えることによって、変化を積極的に具体化することを、できなければならない。100の専門報告の中で、健康上の消費者保護と資源を節約した作物栽培、安全な食料、将来を指向した家畜飼育の領域からのプロジェクトについて、今年の革新デーに際して提起されている。その上、例えばパン、ケーキの油脂減少のための新しい方法、並びに家畜の福祉と、乳牛の健康上のソフトウェアの革新的な問題解決が紹介されている。訪問者は唯一の蜜蜂モニタリングのための RFID-トランスポンダー（訳注）の情報を得ることができる。

訳注・RFID:電波を使って物品や人物を自動的に識別するための技術全般を指す。トランスポンダ：無線中継機

このトランスポンダーの支援でもって、蜜蜂の健康上の行動を監視し、そして蜜蜂の健康上の可能な方法での推論を引き出すために。さらに蜜蜂の保護のための方策導入を可能にする。

背景

連邦農業省は、革新奨励のためのプログラムをもって、ドイツの農業―食料業界の国際的な競争力強化のために、重要な貢献をしている。この研究計画を通じて革新的な産物、手法そしてサービス業務を支援する。2007 年以来、連邦農業省は、年間 2100 万ユーロ（約 27 億 3000 万円）から今年の 5600 万ユーロ（約 72 億 8000 万円）に、財源を増額している。連邦農業・食料局（ptble）のプロジェクト担当者が、革新奨励を通じた計画を事務的に支援している。

2 EU 一漁業大臣がバルト海の漁獲量を決定

―バルト海の魚の現況を持続的に管理すべき― (2018・10・16)

EU 一漁業大臣理事会は、ルクセンブルグにおいて来年度のバルト海における漁獲量に合意した。これについて連邦農業―漁業大臣クレクナーが説明した：EU 一漁業大臣の今日の決定は、持続性の目標についてドイツのバルト海漁業者の困難な状況も、配慮することとしている。私は西バルト海におけるタラの数の明らかに積極的な進展によって、この魚の現況に対する漁獲量を約 70%増加させる。

平行して余暇漁業に関する 1 日あたりの最高漁獲量は、タラで 5 匹から 7 匹に増加した。ツノガレイとニシン属の小魚についても、バルト海漁業のための持続性の良い報告である。ここではツノガレイについて約 43 %、ニシン属の小魚についても約 3 %の漁獲量増加となった。しかし、西部バルト海におけるニシンについて、さらに状況が困難となっている。ニシンの現況は依然として厳しい状況にある。そのため、我々はここで漁獲量を新たに、はっきりと削減しなければならない。具体的には-48 %である。

私にとって重要なこと。それは我々の魚の現況を持続的に管理すること、そして同時に漁業における多くの就業の場を可能とし、魚の加工経営を長期的に維持することである。そのため、我々は来年度においても、バルト海での漁獲量に対する決定を、タラ、ニシン漁業者のための政策をもって支援する。我々は特にタラ、ニシン漁獲船の一時的な停止を、さらに奨励していきたい。この魚の現況を保持・促進するために。さらに加えて教育に際して、若い漁業者を保持するために、財政的な支援を行う。

背景

漁獲割当量と総漁獲量について、リスボン協約に基づいて理事会が単独で決定した。ヨーロッパ議会の審議は、今のところ計画にない。2019年漁獲可能性提案の基礎は、国際漁業研究協会（ICES）の科学的な推薦である。10月15日に委員会と理事会メンバーが一致をめざす政治的合意は、EU—バルト海隣接国の1つであるスウェーデンの議長職のもとで交渉して決める、一括妥協をベースに集中した交渉後になされる。個別には理事会が、ドイツにとって重要な以下の割当量と総漁獲量を決定する。

2019年度バルト海における割当量と総漁獲量（暫定）

（t、サケは個体数）

	2018年		2019年		2019 / 18 %
	EU 総漁獲量	ドイツ割当量	EU 総漁獲量	ドイツ割当量	
ニシン(西バルト海)	17 309	9 551	9 001	4 681	-48
ニシン(東バルト海)	229 355	1 338	170 360	994	-26
タラ (西バルト海)	5 597	1 194	9 515	2 203	+7,0
タラ (東バルト海)	28 388	2 594	24 112	2 203	-15
ツノガレイ	7 076	563	10 122	806	+43
ニシン (小魚)	262 310	16 473	270 772	16 921	+3
サケ	91 932	2 101	91 132	2 101	0

2018・10・30 訳

青森中央学院大学

中川 一徹